

# 道 徳

## 目 次

1	道徳教育改訂のポイント	1
2	道徳の目標のポイント	2
3	道徳の内容のポイント	3
4	道徳の指導計画のポイント	4
5	道徳の時間の指導のポイント	8
6	教育活動全体を通じて行う指導のポイント	9
7	家庭や地域社会との連携のポイント	10
8	道徳教育の評価のポイント	11
9	奈良県郷土資料を活用した指導例	12

## 1 道徳教育改訂のポイント

### (1) 改善の基本方針

- 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い、自立し、健全な自尊感情をもち、主体的、自律的に生きるとともに、他者とかかわり、社会の一員としてその発展に貢献することができる力を育成するために、その基盤となる道徳性を養うことを重視する。
- 発達の段階や社会とのかかわりの広がりなどの子どもたちの実態や指導上の課題を踏まえ、学校や学年の段階ごとに、道徳教育で取り組むべき重点を明確にする。



- ・子どもの自立心や自律性、生命を尊重する心の育成をいずれの段階においても共通する重点として押さえる。
- ・基本的な生活習慣、規範意識、人間関係を築く力、社会参画への意欲や態度、伝統や文化を尊重する態度などを育成する観点から、学校や学年の段階ごとに取り組むべき重点を示す。
- ・人間関係や集団の一員としての役割や責任などを実践を通して学ぶ特別活動をはじめとして、各教科等がそれぞれの特質を踏まえ担うものについて明確にする。

- 道徳の時間における子どもの受け止めは、小学校と中学校では相当に異なっていることから、幼児期や高等学校段階での改善を視野に入れつつ、より効果的な教育を行うために、小学校と中学校の指導の重点や特色を明確にする。



- ・小学校における道徳の時間においては、自己の生き方及びその基盤となる道徳的価値観の形成を図る指導を徹底する観点から、例えば次のような指導を重視する。
  - 低学年……幼児教育との接続に配慮し、基本的な生活習慣や善悪の判断、きまりを守るなど、日常生活や学習の基盤となる道徳性の指導や感性に働きかける指導
  - 中学年……集団や社会のきまりを守り、身近な人々と協力し助け合うなど、体験や人間関係の広がりに配慮した指導
  - 高学年……中学校段階との接続も視野に入れ、他者との人間関係や社会とのかかわりに一層目を向け、相手の立場の理解と支え合い、集団の一員としての役割と責任などに関する多様な経験を生かし、夢や希望をもって生きることの指導
- ・高学年段階から同じテーマを複数の時間にわたって指導するなど、指導上の工夫を促進する。

- 学校全体で取り組む道徳教育の実質的な充実を図る視点から、道徳教育の推進体制等の充実を図る。また、子どもの道徳性の育成に資する体験活動を一層推進するとともに、学校と家庭や地域社会が共に取り組む体制や実践活動の充実を図る。



- ・校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心とした体制づくり、実際に活用できる有効で具体性のある全体計

画の作成、授業公開の促進を図る。

- ・子どもの道徳性の育成に資する体験活動や実践活動として、幼児等と触れ合う体験、生命の尊さを感じる体験、小学校における自然の中での集団宿泊活動などを推進する。
- ・生活習慣や礼儀、マナーを身に付けるための取組などが家庭や地域社会において積極的に行われるよう、その促進を図ることが重要である。

## 2 道徳の目標のポイント

### (1) 道徳教育と道徳の時間

- 学校における道徳教育は、道徳の時間を<sup>かなめ</sup>要として学校の教育活動全体を通じて行う。
- 道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達<sup>ひら</sup>の段階を考慮して、適切な指導を行う。

### (2) 道徳教育の目標

- 人間尊重の精神と生命に対する畏敬<sup>い</sup>の念を具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来<sup>ひら</sup>を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養う。
- 学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。

### (3) 道徳の時間の目標

- 道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成する。



道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める

自己の生き方についての考えを深める

よりよくなろうと  
する自分を感じ、自己を  
肯定的に受け止める

自分の特徴などを知り、  
伸ばしたい自己を深く見つ  
める

現在の生活及び将来の  
生き方の課題を考え、自己の生き  
方として実現していこうとする  
思いや願いを深める

道徳的価値の自覚

道徳的価値につい  
ての理解

自分とのかかわりで道徳的  
価値をとらえること

道徳的価値を自分なりに発  
展させていくことへの思い  
や課題を培うこと

### 3 道徳の内容のポイント

#### (1) 内容構成の考え方

- 道徳の内容は、児童の道徳性を次の四つの視点からとらえ、その視点から内容項目を分類整理し、内容の全体構成及び相互の関連性と発展性を明確にしている。

- 1 主として自分自身に関すること
- 2 主として他の人とのかかわりに関すること
- 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること
- 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

#### (2) 内容の取扱い方 — 関連的、発展的な取扱いの工夫

- 各内容項目間の関連を十分に考慮しながら、指導の順序を工夫したり内容の一部を関連付けたりして実態に応じた適切な指導を行い、各学年段階を通して全部の内容項目が調和的にかかわり合いながら、児童の道徳性が高まっていくように工夫する必要がある。
- 各内容項目の発展性についての三つの形態を参考にし、低学年から中学年、高学年への発展を考慮した指導を行う必要がある。6年間を見通した発展性を十分に配慮した計画の下に、各学年段階において重点化されている内容項目を適切に指導することが大切である。

内容項目の学年段階ごとの発展性の三形態

- ア 最初の段階から継続的、発展的に取り上げられるもの
- イ 学年段階が上がるにつれて新たに加えられるもの
- ウ 学年段階が上がるにつれて統合・分化されていくもの

#### (3) 内容の取扱い方 — 各学校における重点的指導の工夫

- 各学年段階で重点化されている内容項目の指導において、学校で更に重点的に指導したい内容項目を、多様な指導を工夫することによって一層効果的に行う。学校の教育活動全体における指導と道徳の時間の指導の中で重点化を図ることなどが考えられるが、これらは十分な関連を図る必要がある。

**学校の教育活動全体における指導** — 道徳教育の全体計画の作成において、校長の方針の下に道徳教育推進教師を中心に全教員が協力して、道徳教育の重点目標を決めるとともに、具体的な指導方針を明確にし、各学年の重点目標を設定することが大切である。

**道徳の時間における指導** — 道徳の時間においては、各学年段階の内容項目について2学年間を見通した重点的指導を工夫することが大切である。重点的に指導しようとする内容項目に関して年間の授業時数を多く取り、各教科等での指導との関連を図りながら一定の期間において繰り返し取り上げたり、一つの内容項目を何回かに分けて指導したり、幾つかの内容項目を関連付けて指導したりすることなどが考えられる。



内容項目の改善点

- ・「第1学年及び第2学年」……4の(2)「働くことのよさを感じて、みんなのために働く」を追加。2の(2)では「幼い人や高齢者など身近にいる人に」と表現を調整。4の(1)「約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切に使う」は、内容

の入れ替えにより集団のきまりをしっかりと守ることをより強調。3の視点の内容項目については、従来の3の(2)の内容を3の(1)、3の(1)の内容を3の(2)とした（この改善は、中・高学年及び中学校段階まで同様）。

- ・「第3学年及び第4学年」……1の(5)「自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす」を追加。従前の1の(2)「よく考えて行動し、過ちは素直に改める」の項目を削除し、その趣旨については、1の(1)の内容に「よく考えて行動し」を、1の(4)の内容に「過ちは素直に改め」を追加。また、1の(3)では「正しいと思うこと」を「正しいと判断したこと」、4の(2)では「進んで働く」を「進んでみんなのために働く」と変更。
- ・「第5学年及び第6学年」……1の(1)に「生活習慣の大切さを知り」を加えるとともに、「生活を振り返り」を「自分の生活を見直し」と変更。1の(3)では「規律ある行動をする」を「自律的で責任のある行動をする」と変更。4の視点では、内容項目を入れ替え、従来の4の(1)を4の(3)、4の(3)を4の(2)、4の(2)を4の(1)「公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす」とした。

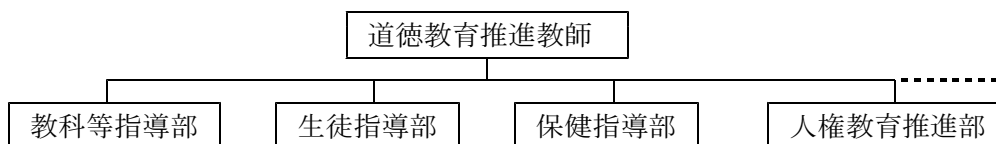
## 4 道徳の指導計画のポイント

### (1) 指導計画作成の方針と推進体制の確立

- 校長は学校における道徳教育の方針を明示する。
- 校長は全教員が道徳教育に参画する体制を具体化し、道徳教育推進教師を位置付ける。
- 道徳教育推進教師を中心として、「道徳教育の全体計画」とそれに基づく「道徳の時間の年間指導計画」を作成する。



道徳教育推進教師を中心とした協力体制の例



道徳教育推進教師の役割

- ア 道徳教育の指導計画の作成に関すること
- イ 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
- ウ 道徳の時間の充実と指導体制に関すること
- エ 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
- オ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- カ 授業の公開など家庭や地域社会との連携に関すること

- キ 道徳教育の研修の充実に関すること
- ク 道徳教育における評価に関すること など

(2) 道徳教育の全体計画

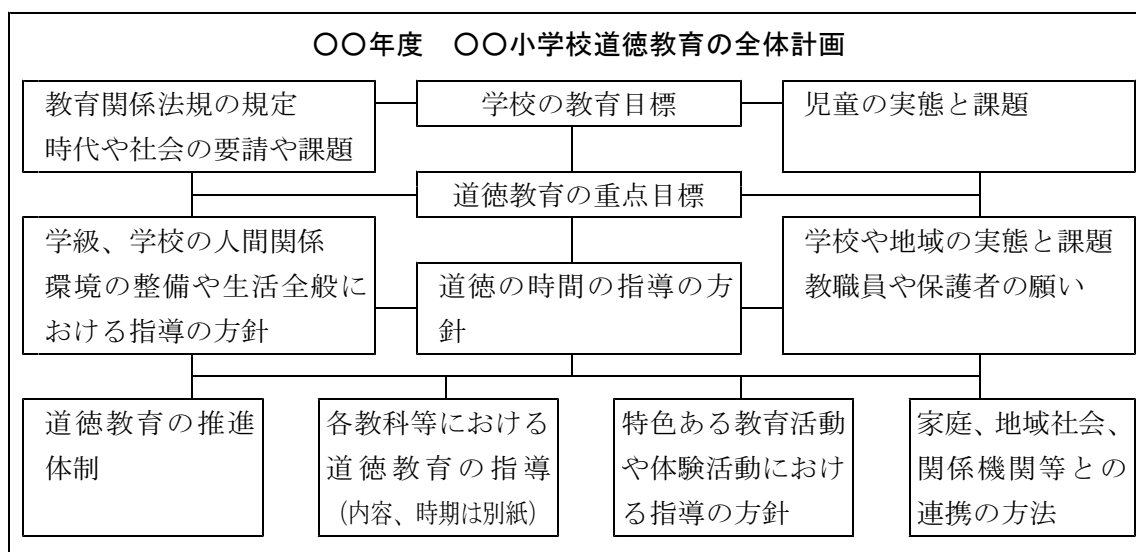
- 道徳教育の全体計画は、学校の設定する道徳教育の基本方針を具体化する上で、学校として特に工夫し、留意すべきことは何か、各教育活動がどのような役割を分担するのか、家庭や地域社会との連携をどう図っていくのかなどについて総合的に示すものである。
- 道徳教育の全体計画は、次のような事項を含めて作成することが望まれる。

基本的把握事項	ア 教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策 イ 学校や地域の実態と課題、教職員や保護者の願い ウ 児童の実態と課題
具体的計画事項	ア 学校の教育目標、道徳教育の重点目標、各学年の重点目標 イ 道徳の時間の指導の方針 ウ 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動などにおける道徳教育の指導の方針、内容及び時期（※） エ 特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の方針、内容及び時期 オ 学級、学校の間関係、環境の整備や生活全般における指導の方針 カ 家庭、地域社会、他の学校や関係機関との連携の方法 キ 道徳教育の推進体制 ク その他（評価の記入欄、研修計画や重点的指導に関する添付資料等）

※ 道徳教育にかかわって、各教科等における指導の内容及び時期を整理したもの、体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの、推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを別葉にして加えるなど、年間を通して具体的に活用しやすいものとする。



道徳教育の全体計画の例



## 別葉の例（第4学年）

各教科等	4月	5月	6月	7月
国語	春 中3-(2) こわれた千の楽器、ふし ぎ 中3-(3) よかったなあ 中3-(2)	知らせたい、あんなことこ なこと 中1-(2)、2-(3) お礼の手紙を書こう 中2-(1)、2-(4)、4-(2)	ヤドカリとイソギンチャク 中2-(3)、3-(2) 夏のわすれもの 中3-(1)、3-(3)、4-(3)	
社会	健康なくらしをささえる			
	ごみのしよりと活用 中3-(1)、4-(2)、4-(5)	命とくらしをささえる水 中3-(1)、3-(2)		
算数	大きい数 円と球	割り算	およその数 折れ線グラフ	
	中1-(2)、1-(3)、2-(2)、2-(3)			
理科	春の自然 中3-(1)、3-(2)、4-(1)、 4-(5)	電気のはたらき 中1-(1)、1-(2)	夏の自然 中3-(1)、3- (2)、3-(3)	

※各教科等における指導内容を「道徳の内容」の観点から示している。

## (3) 道徳の時間の年間指導計画

- 年間指導計画は、道徳の時間の指導が、道徳教育の全体計画に基づき、児童の発達の段階に即して計画的、発展的に行われるように組織された年間の指導計画であり、学年段階に応じた主題を構成し、この主題を学年別に年間にわたって適切に位置付け、配列し、展開の概要等を示したものである。
- 道徳の時間の年間指導計画には、次の内容を明記しておくことが望まれる。

各学年の基本方針	全体計画に基づいた、道徳の時間における各学年ごとの基本方針
各学年の年間にわたる指導の概要	ア 指導の時期—学年又は学級ごとの実施予定の時期を記載 イ 主題名—ねらいと資料で構成した主題を端的に表したものの ウ ねらい—ねらいとする道徳性の内容や観点を端的に表したものの エ 資料—指導で用いる中心的な資料の題名と出典 オ 主題構成の理由—ねらいに対してこの資料を選定した理由 カ 展開の概要及び指導の方法 ー資料をどのように活用し、どのような手順で学習を進めるのか キ 他の教育活動等における道徳教育との関連 ー関連する教育活動や体験活動、学級経営の取組等 ク その他（校長や教頭などの参加及び教員の協力的な指導の計画、保護者や地域の人々の参加・協力の計画、複数の時間取り上げる内容項目の場合は各時間の相互の指導の関連などの構想等）



## 学年別年間指導計画（第4学年）の例

月	主題・資料名	ねらい	展開の概要（言語活動）	備考
	社会のマナー	きまりや規則	①お母さんが、バスに乗ろうとしたよし子	学級のきま

5 月	(高4-(1)) 雨のバス停留 所で(出典 文部省……)	の意義について 考え、進んで守 ろうとする態度 を養う。	さんの肩を引いたのはなぜか。 ②黙って窓のそとを見ているお母さんを見 て、よし子さんはどんなことを思ったか。 ③お母さんがよし子さんに言いたかったこ とは何か。(ワークシート) ④普段、きまりが守れないことがあるのは なぜか。(話し合い)	りについて 考えよう (学級活動)

※備考欄には関連する体験活動や教科等の指導内容等を示している。

#### (4) 学級における指導計画

- 道徳教育の全体計画を各学年や各学級で具体的に推進するための指針として「学級における指導計画」を作成していくことが望まれる。基本的には学級担任が、道徳教育の全体計画に基づき創意工夫して作成するものであり、次のような事項を明確にしておくことが望まれる。

基本的把握 事項	ア 学級における児童の道徳性の実態 イ 学級における児童の願いや保護者の願い、教員の願い ウ 学級における道徳教育の基本方針
具体的計画 事項	ア 教員と児童の信頼関係及び児童相互の望ましい人間関係を築く方策 イ 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育の概要 ウ 学級生活における豊かな体験活動の概要 エ 学級における道徳教育に関する環境の整備の方針 オ 基本的な生活習慣に関する指導の方針 カ 他の学級・学年との連携にかかわる内容と方法 キ 家庭・地域社会等との連携及び授業公開等にかかわる内容と方法 ク その他(例えば重点的な指導に関する具体的計画など)

#### (5) 指導内容の重点化における配慮と工夫



##### 指導内容の重点化における配慮と工夫

- ・ 自己の生き方についての指導を充実する観点から、各学年を通じて、児童の自立心や自律性、生命を尊重する心の育成に配慮する。
- ・ 今日的な課題及び児童の発達の段階や特性等を踏まえ、基本的な生活習慣、規範意識、人間関係を築く力、社会参画への意欲や態度などを育成するといった観点から、各学年段階ごとに取り組むべき重点を示す。

(低学年) 低学年では、あいさつなどの基本的な生活習慣、社会生活上のきまりを身に付け、善悪を判断し、人間としてしてはならないことをしないことについて配慮する。

(中学年) 中学年では、集団や社会のきまりを守り、身近な人々と協力し助け合う



態度を身に付けることに配慮する。

(高学年) 高学年では、法やきまりの意義を理解すること、相手の立場を理解し、支え合う態度を身に付けること、集団における役割と責任を果たすこと、国家・社会の一員としての自覚をもつことなどに配慮する。

- ・とりわけ、社会生活を送る上で人間としてもつべき最低限の規範意識を小学校段階からしっかりと身に付けさせていくことが求められている。

## 5 道徳の時間の指導のポイント

### (1) 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実

- 道徳教育推進教師が中心となり、学校としての方針の下に取組の充実を進めることが大切である。



#### 道徳教育推進教師を中心とした取組

- ・校長や教頭、養護教諭や栄養教諭などの参加・協力による指導、他の教職員とのチーム・ティーチングなど、教職員が協力して指導に当たることができるような計画づくり
- ・教材や図書の準備、掲示物の充実、資料コーナー等の整備
- ・道徳の時間に関する授業研修の実施、道徳の時間の授業の公開や情報発信 など

- 学校として道徳教育推進教師の位置付けを明確にし、そのリーダーシップや連絡、調整の下で、教職員が主体的な参画意識をもってそれぞれの役割を担うように努めることが重要である。

### (2) 体験活動を生かすなどの指導の充実

- 道徳の時間に集団宿泊活動、ボランティア活動や自然体験活動などの体験活動を生かす方法として、次のような工夫が考えられる。

- ・体験活動の中で感じたことや考えたことを道徳の時間の話合いに生かす。
- ・体験活動の活動内容と似た題材等を道徳の時間で生かし、それぞれの指導相互の効果を高める。
- ・(低学年) 生活科等における身近にいる多様な人々とかかわったり、自然への関心を高めたりする体験活動の機会につなげた道徳の時間の指導を考える。
- ・(高学年) 集団宿泊活動等での協力する体験、交流する体験、自然に親しむ体験などにおける活動の深まりを、道徳の時間での資料に基づく話合いに意図的に生かす。  
など

### (3) 魅力的な教材の開発や活用

- 先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材として、児童が感動を覚えるような教材のほか、次のような教材の開発や活用の工夫に努めることが大切である。

- ・名作、古典、随想、民話、詩歌、論説などの読み物

- ・地域の文化やできごと等に取材した郷土教材
- ・地域住民が実際に児童に語り聞かせるなどの生きた教材
- ・映像ソフト、映像メディアやインターネットなどの情報通信ネットワークを利用した教材
- ・実話、写真、劇、漫画、紙芝居などの多彩な形式の教材
- ・児童自らが話合いをつくっていくことができる教材
- ・複数時間にわたる指導に生かすことができる教材 など

○ 児童が身に付ける道徳の内容を分かりやすく表し、道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるものとして作成された「心のノート」の適切な活用が望まれる。

#### (4) 言葉を生かし考えを深める指導の工夫

- 道徳の時間のねらいに迫るために、個々の児童や学級の実態に応じて、自分の考えを基に、書いたり話し合ったりするなどの表現する機会を充実することが大切である。
- 児童が自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるよう指導を工夫する。



自分の考えを深め、自らの成長を実感できるような指導の工夫

- ・はじめの段階と自分がどう変わったかが分かるような書く活動の工夫
- ・児童が想定したもう一人の自己に問い掛けて考えを深める自己内対話の工夫
- ・事前に以前の様子を想起できるような具体的な材料を収集したり、児童に収集させたりしておき、それを生かして学習を進める工夫 など

#### (5) 情報モラルの問題に留意した指導

○ 情報モラルに関する指導について、道徳の時間の特質を生かした指導の中での配慮が求められる。指導に際しては、次のような創意ある多様な工夫が生み出されることが期待される。

- ・情報モラルにかかわる題材を生かして話合いを深める工夫
- ・コンピュータによる疑似体験を授業の一部に取り入れる工夫
- ・児童の生活体験の中の情報モラルにかかわる体験を想起させたりする工夫 など

○ 具体的には、次のような指導が考えられる。

- ・メールと会話との違いを理解し、メールなどが相手に与える影響について考えるなど、インターネット等に起因する心のすれ違いなどを題材とした指導
- ・ネット上の法やきまりを守れずに引き起こされた出来事などを題材とした指導 など

## 6 教育活動全体を通じて行う指導のポイント

学校における道徳教育は、道徳の時間を<sup>かなめ</sup>要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。(後略)

小学校学習指導要領 第1章 総則「第1 教育課程編成の一般方針」の2

- 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動には、それぞれ固有の目標や内容があるが、それらはすべて児童の豊かな人格の形成につながるものである。



- 道徳教育は教育活動全体を通じて行い、それぞれの教育活動の特質に応じて、道徳的な心情や判断力、実践意欲と態度などの道徳性の育成に努める必要がある。



かなめ  
**道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育**

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育は、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて効果的に展開される。教育活動全体を通じて行う道徳教育と、それらを補充、深化、統合する道徳の時間の指導とが、十分に関連をもって機能することが、児童自らはぐくむ道徳性が自己の生き方の指針として統合されることにつながる。

- ※ 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動等における指導については、小学校指導要領解説 道徳編102～115ページ、各教科等の解説編、本指導資料の各教科等の内容等を参照。

## 7 家庭や地域社会との連携のポイント

### (1) 家庭や地域社会との協力体制の充実

- 「いつでもどこでも」を合い言葉とした開かれた学校の雰囲気をつくり、授業公開への取組や、広報活動や相互交流の場を増やし定例化していくことなどが望まれる。
- 家庭における四季折々の習慣的な取組、地域社会における諸行事や活動の機会をとらえて、それと学校の諸活動との関連を図った活動や、学校が支援する側に回るような取組も必要である。



家庭や地域社会との協力体制の充実に向けた取組

- ・ P T Aや地域の人々と道徳教育について共に語る会の定例化
- ・ 道徳性の育成にかかわる講演会や道徳の時間の授業の公開、地域の人々の参加や協力、地域の諸行事を生かした学校の教育活動等の推進
- ・ 学校と家庭が一体となって地域の公共団体や企業等が企画する諸行事に参加、共に学ぶ場の設定 など

### (2) 多様な連携の創意工夫

- 家庭や地域社会との連携を充実していくには、多様な連携の在り方を考え、学校及び家庭や地域の実態に合った以下のような方法を工夫していく必要がある。

- ・ 学校通信や学年通信、インターネットのホームページ等で、学校の道徳教育の方針や諸計画、児童の成長の様子がうかがえるような取組などを伝え、共に考える。

- ・学校における道徳教育への理解と協力を家庭や地域社会から得るためにも、道徳の時間の授業を公開する。
- ・道徳の時間の授業への保護者の参加や協力（児童と同じ立場、講師、メッセージを伝える役目として参加、アンケートや児童への手紙等の協力等）を得る。
- ・道徳の時間の授業への地域の人々や団体等の協力（特技や専門知識を生かした話題や児童へのメッセージを語る講師等）を得る。
- ・地域教材の開発や活用への協力を得る。
- ・学校の諸行事への招待、朝会や集会における講話、地域の高齢者施設や諸団体との交流など、多様な人との交流を深める。
- ・地域で行う大会、祭りなどの諸行事の企画・運営に参加したり諸団体と連携したりする。
- ・家庭や地域と一体となって、生活習慣や礼儀、社会生活上のモラルを身に付けるなど、道徳性を高める実践活動を推進する。 など

## 8 道徳教育の評価のポイント

### (1) 評価の基本的態度

- 児童一人一人がよりよく生きる力をもっているという信念と児童の成長を信じ願う姿勢をもち、児童と心と心の触れ合いをもつよう努める。また、児童自身が自己の姿をどのように理解し、自己のよりよい生き方を求めていく意欲や努力をどのように評価しているかを児童の立場に即して理解しようとし、児童の意欲や努力をその内面から支える。児童の道徳性の理解は、このような教員と児童の心の触れ合いの中でなされる共感的な理解によるべきである。

### (2) 評価の観点と方法

- 道徳性の理解や評価に当たっては、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的实践意欲と態度及び道徳的習慣などの観点から分析することが多い。

- ・道徳的心情……道徳的に望ましい、あるいは望ましくない感じ方、考え方や行為に対して、児童がどのような感情をもっているか等を把握する。
- ・道徳的判断力……道徳的諸価値についてどのようにとらえているか、また、道徳的な判断を下す必要がある問題場面に直面した際に、どのように思考し判断するか等を把握する。
- ・道徳的实践意欲と態度……学校や家庭での生活の中で、道徳的によりよく生きようとする意志の表れや行動への構えが、どれだけ芽生え、また定着しつつあるか等を把握する。
- ・道徳的習慣……特に基本的な生活習慣をどの程度身に付け実践できているかを把握する。

- 道徳性を理解し評価するための資料収集の方法として、以下が考えられる。

- ・観察や会話による方法
- ・作文やノートなどの記述による方法

- ・質問紙などによる方法
- ・面接による方法
- ・その他の方法(具体的な事例検討、各種のテストを用いる方法)

### (3) 評価の創意工夫と留意点

○ 以下の点に留意する必要がある。

- ・児童との心の触れ合いを通して得られる共感的理解を基盤として、児童自身のよりよく生きようとする意欲や努力に目を向けて、道徳性に関する自己理解・自己評価をその内面から理解していくように努める。
- ・児童理解の観点を固定的に考えず、児童のよさや個性を積極的に受け止め、多面的で幅広い視点に立った評価を心掛ける。
- ・児童一人一人の姿や変化を具体的に記述できるように努力し、個に目を向けた評価となるようにする。
- ・自分を表現する得意な面が児童によって違うことなどから、多様な方法を生かしながら評価するように努める。また、可能な場合、複数の人の評価資料を得て評価できるようにする。
- ・児童の一時期の様子だけで即断することなく、継続的に観察するなどして、長期的な視点に立った評価を心掛ける。
- ・評価の結果を児童の個に応じた指導や学級全体の指導に生かすようにする。

※ 道徳の時間における評価においても、これらの留意点を踏まえ、可能な限り児童の変化をとらえて日常の指導や個別指導に生かしていくように努める。ただし、道徳の時間に関して数値などによる評価は行わない。

## 9 奈良県郷土資料を活用した指導例

奈良県郷土資料は、郷土奈良の伝統と文化、自然などを取り上げ、郷土を大切にする心をはぐくむ道徳の時間の指導等に活用できるよう作成したものである。ここでは、児童の発達の段階を踏まえて作成した小学校低・中・高学年用郷土資料を取り上げ、その指導例を示す。

### ◆第2学年の指導例

- 1 **主題名** わたしたちのふるさと      指導内容 低4-(5)  
**資料名** 大すきなぼくの町      (奈良県郷土資料① 県教育委員会)

#### 2 主題について

- 児童は、生まれてから家族と共にそれぞれの土地で生活し、様々な経験を経て成長する。自分の育った郷土は、人間性を培う基盤となり自己形成に大きな役割を果たすとともに、生涯の精神的な支えとなるものである。児童が、郷土と積極的にかかわることを通して郷土を愛する心をはぐくみ、自分たちの郷土をよりよくしていこうとする態度を育成することが大切である。

この期の児童は、少しずつ自分を取り巻く郷土に目を向け、郷土で生活しているという実感をもてるようになる。そこで、遊びや様々な学習を通して郷土の自然や人々との触れ合いを深め、郷土に一層親しみをもって生活できるようにしたいと考える。

- 現在の児童は、様々な社会的背景から、放課後等に地域で遊ぶ機会や地域の人々と触れ合う機会が減っている。伝統的な行事などが行われない新興の地域も増えている。それだけに、郷土とのかかわりを深める積極的な取組が学校教育の場においてもより一層求められている。

本学年の児童は、1年生の生活科で地域の公園で遊んだり高齢者に昔の遊びを教えてもらったりするなど、学習活動の中で地域と触れ合う経験をしてきている。こうした経験や体験を通して、児童は少しずつ郷土の「人・こと・もの」への親しみを深めており、本時の学習ではこれらの経験を生かしながら、さらに自分たちの郷土について考え、愛着を深めさせたい。

- 本資料は斑鳩町を舞台として、法隆寺、竜田川などの歴史遺産や自然を取り上げ、それらと主人公のかかわりを描いたものである。低学年児童を対象としており、歴史建造物の文化的価値や自然保護の大切さを考えさせるより、それらとの思い出やかかわりを大切にし、身近に感じ親しませることをねらいとしている。

展開前段では、主人公や母親の法隆寺や竜田川に対する思いについて考えさせ、それらをより身近に感じ大切に思うようになった主人公に共感させたい。また、展開後段では、郷土と自分たちとのかかわりについて考えさせたい。その際、生活科の学習などで感じたり気付いたりしたことについても振り返り意見交流をさせるなど、児童それぞれが郷土への愛着や親しみをより深められるようにしたいと考える。

### 3 事前指導の工夫

- ・「こころのノート」P88～89を開く機会をつくる。

### 4 ねらい

身近な人々の郷土への思いを知り、自分自身も郷土への愛着を深める主人公の心の動きを考えることを通して、郷土への愛着を深め、親しみをもって生活しようとする態度を養う。

### 5 展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、郷土に親しんだ経験を話し合う。	○ よく出かけたたり遊んだりする身近なところがありますか。 ・近所の公園でよく遊ぶよ。 ・家族で○○にハイキングに行ったよ。	・体験を自由に出し合わせ、本時の学習内容にスムーズに入っていけるようにする。	
展 開	2、資料「大すきなぼくの町」を読んで話し合う。	○ シゲルはどうして法隆寺を紹介しようと思ったのでしょうか。 ・とても有名だから。 ・法隆寺は、多くの人がかこれまで大切に守ってきたところだから。	・郷土の伝統であるとともに、シゲルにとってお母さんとの思い出の場所であることを押さえ、シゲルの気持ちにより深くせまることができるように	

展 開		<ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんとの思い出の場所だから。</li> <li>○ お母さんの話を聞いたシゲルは、どんなことを思ったのでしょうか。</li> <li>・お母さんも楽しかった思い出があるんだな。うれしいなあ。</li> <li>・ぼくもずっとお母さんと一緒に散歩がしたいな。</li> <li>◎ シゲルが、もっともっと法隆寺や竜田川のことが好きになった気がしたのはどうしてでしょう。</li> <li>・お母さんとの思い出の場所だから。</li> <li>・おじいさんたちも大切にしているところだから。</li> <li>・ずっとお母さんたちと楽しく過ごしていきたいところだから。</li> </ul>	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シゲルと散歩したことがお母さんの大切な思い出であることや、それを聞いたシゲルの喜びに着目させる。</li> <li>・シゲルやお母さんの思い出や、もみじを守ろうとするおじいさんたちの思いを押さえ、シゲルの郷土に対する気持ちの深まりにせまることができるようにする。</li> <li>・ワークシートに書き込むことでじっくりと考えさせ、それを基にして積極的に話し合えるようにする。</li> <li>・日常の生活や生活科での学習なども思い起こさせ、自分の郷土に対する様々な思い出や、大切にしようとしている人々がいることに思いを巡らせることができるようにする。</li> </ul>	ワークシート
	3、自分を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近な町に、思い出の場所や大好きな場所がありますか。</li> <li>・いつもみんなと遊んでいる公園は、とっても好きな場所だよ。</li> <li>・これからもずっと家族と一緒に○○に行って、ハイキングをしたいな。</li> <li>・おじいさんたちが、公園の花の水やりをしているのを手伝ったよ。またやりたいな。</li> </ul>		
終 末	4、指導者の話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者自身の郷土に対する思いや郷土を守るために力を尽くしている人々の話などにより、郷土への愛着を高め、親しもうとする心情を温める。</li> </ul>	

## 6 事後指導の工夫

- ・「こころのノート」P90～91の新聞を作るなど、自分たちの郷土を見つめる機会をもつ。

## 7 指導のポイント

### (1) 資料の扱いについて

本資料では、郷土に親しみを感じる視点の一つとして、家族との思い出を取り上げている。資料を基にした話合いの場面では、児童が家族への思いを温めることも考えられ、関連する内容として低4-(3)も考えられる。

低学年児童にとって、資料がやや長く、実践校では事前に読み聞かせの時間をとり、資料の内容理解を十分に図った上で授業を行っている。また、展開の中では、写真や登場人物の挿絵等を拡大提示し、場面ごとの理解や主人公への共感をより深められるよう工夫を

行っている。こういった手立ては、低学年に限らず道徳の時間の学習展開において効果的である。

## (2) 体験活動との関連について

事前に生活体験や学校等における体験活動など、児童がどのような体験をできているかをつかんでおくことがとても重要である。実践校では生活科で「町探検」を実施しており、展開後段で自分たちの町を振り返る場面を計画したが、実際にこの学習場面で児童の関心が一気に高まった。生活科で

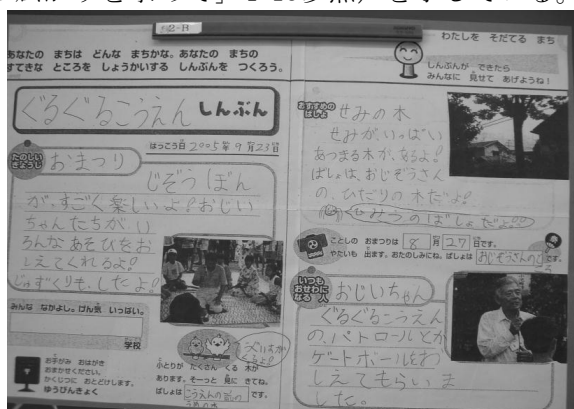


の体験で感じたことが次々と出し合われ、身近な自分たちの町を見直し、一層親しみを深めていることがうかがえた。こういった指導の際には、地域の様々な写真等を事前に準備しておき、それらを提示しながら体験を振り返らせるとよい。

## (3) 終末等の工夫について

本実践では、終末で、「こころのノート」低学年の書き込みの例（平成18年3月 奈良県道徳教育推進指導資料「心に響く道徳教育の広がり求めて」P15参照）を示している。

実践校では、授業後に「こころのノート」の同ページを活用して自分たちの町の素敵などを紹介する新聞作りを計画している。こうした事後活動を計画することで、資料の主人公と児童が、実際の学習活動でも重なっていくことになり、児童の学習意欲の向上とともに、一連の学習活動を通して児童が自分たちの郷土への愛着や親しみを一層深めることが期待できる。



## ◆第4学年の指導例

- |   |            |         |                     |          |
|---|------------|---------|---------------------|----------|
| 1 | <b>主題名</b> | ふるさとの自然 | <b>指導内容</b>         | 中3 - (2) |
|   | <b>資料名</b> | 奈良公園のシカ | (奈良県郷土資料② 奈良県教育委員会) |          |

### 2 主題について

- 遙か太古の昔から、私たち人間は自然に親しみ、また畏敬しながら自然と共に生きてきた。動植物を大切にし、自然との調和を図りながら豊かな情操を育ててきたのである。ところが、科学の進展に伴い、私たちは自然を支配しているかのような錯覚に陥ってはいないだろうか。地球全体の環境の悪化が懸念される現在において、自然や動植物を愛し、自然環境を大切にしようとする態度の育成は特に重要である。この期の児童が、改めて自分たちの身近な自然を振り返り、その大切さを自分とのかかわりで考える機会としたい。



- 本学年の児童は、小動物を教室で飼ったり、花や実などの植物を採って遊んだりするなど、自然と触れ合うことが好きである。また、理科の学習においては、一年を通して四季の自然の移り変わりを観察し、ヒョウタンなどを栽培するなど、自然とのかかわりを多く経験している。さらに、総合的な学習の時間などに身近な自然の様子を調べ、自然を守るために自分たちのできることを考えたり、呼びかけたりする活動を行っている学校もある。

こうした経験や体験を通して、児童は自然の素晴らしさや身近な自然を守ることの大切さに気付いてきている。本時の学習では、児童がこれまでに感じたり気付いたりしてきたことを振り返りながら、身近な自然を愛護することの大切さについてじっくりと話し合いたい。

- 本資料は、自然と人間との共存を視点として描かれており、人間の側からの一方的な保護ではなく、人間も自然の一部と考える謙虚さや自然への畏敬に根ざした愛護・共生の大切さがテーマである。題材として取り上げられた奈良公園の自然は、本県の児童にとっては周知のものであり、強く学習への興味を喚起することであろう。また、主人公は児童にとって等身大であり、その思いを読み取ったり共感したりすることを通して、自然に対する自分自身の考えと向き合うことができる。

展開前段では、おじさんの言葉等を手がかりとしながら、自然を守ることや自然と共に生きるものの大切さについて考えさせたい。また、展開後段では、普段の生活や理科、総合的な学習の時間等でこれまでに感じたり気付いたりしてきたことについて話し合い、身近な自然とどのようにかかわっていくか、それぞれに考えを深めさせたい。

### 3 事前指導の工夫

- ・総合的な学習の時間に作ったポスターなどを教室に掲示し、学習を振り返らせておく。
- ・「心のノート」P60～63に感じたことや考えたことを記入しておく。

### 4 ねらい

奈良公園のシカについて様々なことを知って郷土の自然に対する考えを深める主人公の姿に共感し、その気持ちを考えることを通して、身近な自然を大切にしようとする心情を高める。

### 5 展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、奈良公園に行った経験を話し合う。	○ 奈良公園に行ったことはありますか。 ・家族でハイキングをした。 ・シカせんべいをあげたことがある。	・経験を自由に話し合わせ、本時の学習にスムーズに入っていけるようにする。	
展 開	2、資料「奈良公園のシカ」を読んで話し合う。	○ おじさんの話を聞いたタケシは、どうしてじっと考え込んでしまったのでしょうか。 ・これまで何も考えずにシカに物をあげていたから。 ・シカにとって奈良公園はすみよい場所だと思っていたから。	・自分たちの経験も振り返らせることで、シカをかわいいと思って何気なく食べ物をあげようとしたり、おじさんの話を聞いて衝撃を受けたりしたタケシに共感できるようにする。	

展 開	3、自分を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料展示室で「白ちゃん」のことなどを知ったとき、タケシはどんなことを考えたでしょう。</li> <li>・人間の都合で、シカたちを苦しめていたなんて。</li> <li>・シカたちは、人間のことをどんなふうに思っているんだろう。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 奈良公園の人々やシカたちを見ながら、タケシはどんなことを考えていたのでしょうか。</li> <li>・今日知ったことを、たくさんの人に教えたい。</li> <li>・シカも人間もみんなが仲よく暮らしていける町にしていきたいな。</li> <li>・ずっとこんな景色が見られるように、奈良公園をみんなで守っていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故だけでなく、観光客のマナー等によるシカの受難を押さえ、シカにとってときに人間が脅威となっていたことを知ったタケシの気持ちにせまらせる。</li> <li>・奈良公園の自然の仕組みを図示するなどして、資料の内容を踏まえながらタケシが奈良公園の自然を大切に思う気持ちの深まりに共感させる。</li> <li>・ワークシートに書き込むことでじっくりと考えさせ、それを基にして積極的に話し合えるようにする。</li> </ul>	ワークシート
		○ 自分たちの身近な自然について考えたことはありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇川の水をきれいにして、生き物呼び戻したいと思う。</li> <li>・動物が車にひかれて死んでいる姿をよく見かけることがある…</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の生活や各教科等の学習などで感じたことなどを自由に話し合わせ、身近な自然を大切にしようとする心情を高められるようにする。</li> </ul>
終 末	4、指導者の話を聞く。	○ 「心のノート」62ページを開きましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「心のノート」を活用したり、自然を守るために力を尽くしている人々や指導者自身の自然に対する思いを話したりして、郷土の自然を大切に守っていこうする心情を温める。</li> </ul>	「心のノート」

## 6 事後指導の工夫

- ・ワークシートを「心のノート」に貼るなどして、いつでも振り返ることができるようにする。

## 7 指導のポイント

### (1) 資料の扱いについて

資料の扱いに関しては、資料が人間と自然との共存を視点として描かれており、4年生には少々内容理解が難しいと思われる。実践校では、説明を補足したり写真を提示したりしながら読み聞かせを行った。可能であれば事前に配布して一読させておくと、よりスムーズな学習展開が期待でき、主題にせまる話合いをより深めることができるであろう。



### (2) 発問について

中心発問では、「自然との共存」という視点からより考えを深めさせるため、「人間も自然の一部なんだ」という言葉をどうとらえるのかを児童に問い返しながらか学習を進めるこ

とが大切である。考えをじっくりと深めさせるため、ワークシートに書かせる活動も効果的である。

実践校ではワークシートに書く時間を十分にとったため、意見を交流する時間が不足した。意見交流による児童相互の学び合いにしっかりと時間をかけることができるよう、時間配分に十分に留意することが必要である。

### (3) 体験活動との関連について

展開後段では、生活体験はもちろん、特に4年生の理科や社会、総合的な学習の時間等で学んだ経験や体験ともつなげて、どのように身近な自然とかかわっていけるのかということじっくり考えさせたい。教科等における学習の記録や振り返りカードなどがあれば準備しておき、それらを基に振り返らせるとよい。教室の壁面に掲示しておくことも有効である。

実践校では、児童が遠足で奈良公園を訪れており、全員が共通体験をもっていることで、より焦点化した話し合いが展開された。生活を振り返る際には、総合的な学習の時間に校区の尼寺川や葛下川の様子を調べたときの振り返りカードを活用している。

### (4) 「心のノート」等の活用について

終末では、「心のノート」を活用したり指導者自身の自然に対する思いを話したりして、郷土の自然を大切に守っていきこうする心情を温めたい。実践校では、本時の大きなテーマである「自然との共存」について、「心のノート」の言葉を手掛かりにして自己の生き方への思いを温められるよう、大きく提示している。このように視覚からもテーマを追究できるよう、板書を効果的に活用することも重要である。



## ◆第6学年の指導例

- |   |     |          |      |                     |
|---|-----|----------|------|---------------------|
| 1 | 主題名 | 私たちのふるさと | 指導内容 | 高4－(7)              |
|   | 資料名 | 笠のそば     |      | (奈良県郷土資料③ 奈良県教育委員会) |

### 2 主題について

- 私たちが郷土を思い起こすとき、まぶたに浮かんでくるのは、どんな風景、どんな人たちであろうか。人によって思い起こす風景はそれぞれに違い、その風景の中に登場する人々も様々であろう。しかし、単に「生まれ育った土地」というだけでなく、「心の拠り所となる場所」—たとえ今は離れた場所においても、いつか帰っていける、帰りたい場所—それが「ふ

るさと」であり、そうした「ふるさと」をもつことは生きる上で大きな心の支えとなるものである。

高学年を迎え、自分たちの周りの「人・こと・もの」に対する見方・考え方が広がり深まってきたこの時期に、郷土を大切に守ってきた人々の努力を知り、自らもまた郷土の一員として郷土を発展させたいという心情をはぐくむことはとても大切である。

- 本学年の児童は、これまでの学習活動や地域での生活の中で、地域とのかかわりは深くなってきている。あいさつを交わし合う地域の人々との輪が広がり、地域での活動も多く経験してきている。しかし、自分自身が地域に帰属しているという意識はまだ低く、また地域を守り支えている人々がいることに思いが至っていない児童も多い。

実践校は、閑静な山手の住宅地にあり緑が豊かで児童公園も多く、児童は落ち着いた環境の中で生活している。児童の多くが地域の子ども会に所属し、高学年としてリーダーシップを発揮して廃品回収を実施するなど、地域での活動にも積極的である。

- 本資料は、そばの栽培を地域の産業として位置付け、現在も地域でそば店の営業を続ける桜井市笠地区の人々を取り上げている。

展開前段では、農地開発で手に入れた広い畑にそばを植え、乾麺を作って販売したり地域で協力してそばの店を出したりした笠の人々の思いや願いを考えることを通して、郷土を愛し大切にしようとする心情に共感させたい。また、展開後段では身近な自分たちの郷土について振り返り、自分たちの身の回りにも同じように地域を思い支えている人々がいることに気付かせるとともに、郷土の発展に貢献しようとする心情を高めたいと考える。

### 3 事前指導の工夫

- ・社会科の学習などを通して、地域の様子に興味をもたせておく。

### 4 ねらい

郷土を愛し、郷土の文化や伝統を築き上げてきた人々の努力や願いを知り、郷土を大切にしようとする心情を高める。

### 5 展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、「ふるさと」について話し合う。	○ 「ふるさと」という言葉を聞くと、どんなことやものが思い浮かびますか。 ・生まれ育ったところ。 ・おじいちゃんやおばあちゃん。	・自由に意見を出し合わせ、本時のテーマにつなげるようにする。	
展 開	2、資料「笠のそば」を読んで話し合う。	○ 笠の人々は、どうしてそばを笠の名物にしようと思ったのでしょうか。 ・あまり手間をかけずに育てられる。 ・多くの人笠を知ってくれる。 ・若い跡継ぎの人たちも育つ。  ○ そばの店を出そうと考えたのは、どんな気持ちからでしょう。	・農地開発からそば栽培に至る経緯を押さえ、地区の悩みを抱えながらも、自分たちの郷土を守っていこうとする思いに気付かせる。  ・最初は売れなくて苦労したことや、いつも笠の人	補助 写真

展 開		<ul style="list-style-type: none"> <li>・こんなにおいしい筍のそばをもっと味わってほしい。</li> <li>・筍が有名になる。</li> <li>・たくさんの人が食べに来たら、もっともうかる。</li> <li>・食べた人が喜んでくれる。</li> <li>・筍のみんなで力を合わせてがんばりたい。</li> </ul> <p>◎ 「そばを始めて本当によかった」という言葉には、どんな気持ちがこもっているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筍にたくさんの人たちが来るようになってよかった。</li> <li>・みんなで頑張ったから、多くの人に来てくれるようになった。</li> <li>・みんなの働く場所が増えた。</li> <li>・大きくなったらそばを作りたいという子どもたちが出てきてうれしい。</li> </ul>	<p>たちがみんなで協力し合ってきたことなどから、筍の人々の粘り強い努力や連帯感、そばへの愛情、誇りなどを感じ取らせる。</p>	
	3、「心のノート」P104、105を開き、自分たちの郷土について考える。	<p>○ 自分たちの郷土では、どんなことやものが大切にされてきているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○○古墳は多くの人々が訪れ、地域の名所となっている。</li> <li>・自治会の人々が中心となって「夏祭り」を毎年行ってくれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで力を合わせてそばを始めたことで、多くの人が筍を訪れ、地区が活気付いてきたことを押さえ、筍の人々の郷土への愛情や、みんなで郷土を大切に守ろうとしてきた思いに気付かせる。</li> <li>・ワークシートに記入させ、友達と意見交換することで、思いや考えを深めさせる。</li> <li>・「心のノート」を読んだり書き込んだりすることで、自分たちの郷土に目を向け、郷土を大切にしようとする心情を高められるようにする。</li> </ul>	ワークシート
終 末	4. 指導者の話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土のために力を尽くしている人々の話などにより、郷土を大切にしようとする心情を温める。</li> </ul>	

## 6 事後指導の工夫

- ・授業で使った掲示物等を継続的に掲示しておき、日常的に本時の学習を振り返ることができるようにする。

## 7 指導のポイント

### (1) 資料の扱いについて

本資料に取り上げられている桜井市筍地区は、多くの児童にとってはあまり馴染みのない地域であろう。指導の際には、写真等の資料を提示するなどして児童が臨場感をもって考えられるようにしたい。

### (2) 学習展開のポイントについて

展開前段では、そばづくりがはじめからうまくいったわけではなく、乾麺が売れなくて苦労したことや、それでもあきらめずに地区の人々が力を合わせ工夫してそばづくりを進めてきたことを丁寧に押さえながら進めることが大切である。その上で、筍の人々の粘り強い努力や連帯感、そばへの愛情、誇りなどについて考えさせるよ



うにする。そのことが「そばを始めて本当によかった」という笠の人々の思いを問う中心発問において、郷土への愛情やみんなで郷土を大切に守ろうとしてきた笠の人々の思いにせまることにつながるからである。

展開後段では児童それぞれの郷土について振り返らせたい。実践校では、地域の自治会が中心になって行っている夏祭りや大切に整備されている遺跡などを話題にしたり写真で提示したりしている。児童にとって改めて自分たちの郷土のよさに気づき、自分と郷土とのかかわりを見つめ直す機会となったようである。

### (3) ワークシートの活用について

ワークシートについては、児童の側からはじっくり自分と向き合って考えを深めることができること、後にワークシートを基に学習を振り返り自己の成長を実感する一助とできること、指導者の側からは、机間指導により直接一人一人の児童に指導できること、またその考えが把握できることなどの観点から有効である。本展開では中心発問でワークシートを活用しているが、展開後段でワークシートに書き込むことを通して自分と郷土とのかかわりを改めて見つめ直させることもできる。

実践校ではワークシートの活用上の工夫として、書き込んだワークシートをグループ内で読み合い、コメントを書き入れ合うようにしている。ワークシートを通して児童同士が意見交換を行えるという点、またそのことを通して、互いの意見を認め合うとともに友達の見解から新たな気づきが生まれるという点で効果的な取組である。



## — 作成委員 —

辻 本 正 憲	上牧町立上牧第二小学校	校 長
中 野 喜 久	生駒市立鹿ノ台中学校	校 長
濱 田 文 隆	香芝市立志都美小学校	教 頭
森 田 啓 子	王寺町立王寺南小学校	教 諭
高 橋 誠	広陵町立広陵中学校	教 諭
松 本 吉 央	奈良県立教育研究所	研究指導主事
荒 木 篤 人	奈良県教育委員会事務局学校教育課	指 導 主 事

(作成委員の職名等は平成21年度のものである。)

